

## 全日本民医連第16回検査部門全国交流集会(10/28~29)に参加して

10/28~29にかけて横浜で、全日本民医連第16回検査部門交流集会が開催され、今回は「検査室から一歩踏み出そう」のメインテーマのもと、地域包括ケアについての記念講演や、検査室外で活躍する検査技師の業務についての発表があった。

地域包括ケアについては、検査技師がケアに関わる機会は極めて少ないイメージだったので、これまで真剣に考えたことがなかった。「患者の住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供されるシステム」と一般的に言われているが、民医連としては、無差別・平等、個人として尊重される地域包括ケアを目指している。そして、その地域包括ケアを進めるにあたって連携が不可欠であり、例えば、馴染みの患者の変化に気づけているか、またその気づきをチームに発信しているか、共有する仕組みがあるかなどの取り組みが院内の連携になることを知った。この連携の基盤が院内から院外へ、そして地域へと広がっていく。検査技師も地域包括ケアを行う一員として、社会情勢を理解し、目の前の患者を通して、日々の気づきを大切に連携と発信を積み重ねていく必要があると感じた。

検査室外で活躍している検査技師についての発表では、在宅に介入する検査技師の業務が特に興味深か



った。検査技師の業務が拡大され、検査室外でも必要とされるようになったが、課題は多くあると感じた。しかし、医師・看護師不足の現状の中、検査技師が専門性を活かせる活躍の場は今後増えることが予想され、仕事のモチベーションにつながっていくのではないかと考える。

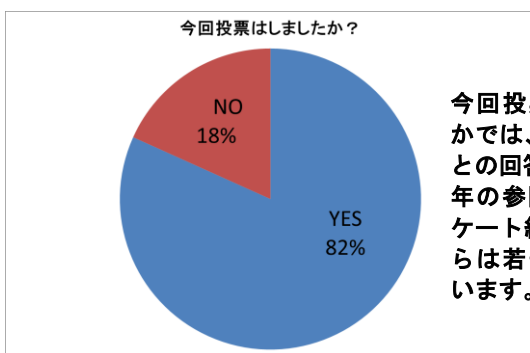
今回の交流集会を通して、検査技師が専門性を活かせる場は検査室外にも多く存在し、時代のニーズに合わせて柔軟に対応していく検査技師集団でなければいけないこと、そして医療・社会情勢を正しく理解し、鼓動を続けていく必要があることを学んだ。

(高松平和病院検査科 横山智子)

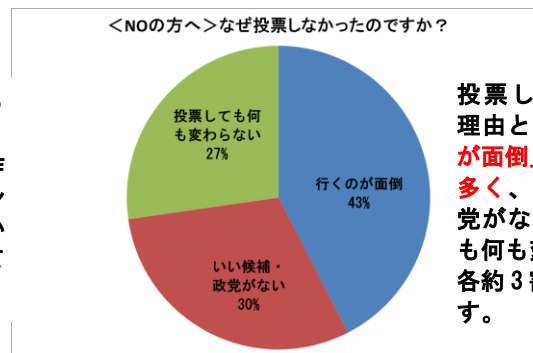
## 10・22 総選挙結果に関する

## 職員アンケートの結果

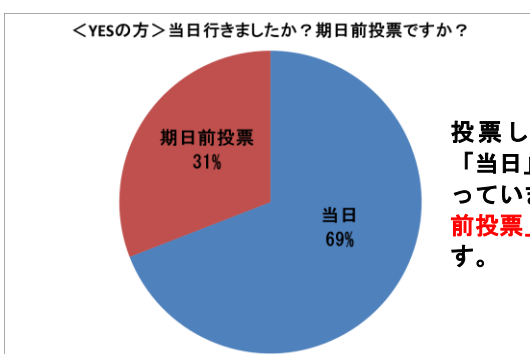
10月22日に実施された総選挙後、職員のみなさんを対象に実施したアンケートについて、441名の方から回答が寄せられました。



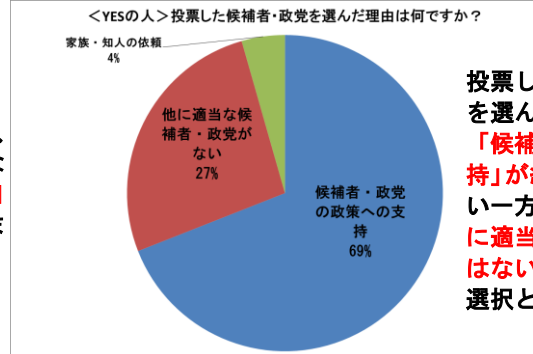
今回投票したかどうかでは、「投票した」との回答が82%と、昨年の参院選時のアンケート結果(86%)からは若干低くなっています。



投票しなかった人の理由として、「行くのが面倒」が4割と最も多く、「いい候補・政党がない」「投票しても何も変わらない」が各約3割となっています。



投票した人のうち、「当日」が約7割となっていますが、「期日前投票」も3割います。



投票した候補者・政党を選んだ理由として、「候補者・政党への支持」が約7割と最も多い一方、約3割は「他に適当な候補者・政党はない」という消極的選択となっています。